



2022シーズン展望／女子プロ編 “姫路一強”の勢力図は塗り替わるか!?



▲昨年の全日本女子プロ選手権優勝時の姫路。今シーズンも彼女が不動の主役であることは間違いないが…

2022年のJPBA女子プロレギュラーツアーが2月12日、「JPBA WOMEN'S ALL☆STAR GAME 2022」(千葉・北小金ボウル／以下「女子プロオールスター」と表記)からスタート。コロナ禍で2年くりとなった2020-21シーズンは、姫路麗が8勝の荒稼ぎでポイント、アベレージ、獲得賞金3部門のランキングトップを独走し、2期連続4度目の3冠女王に輝いた。今シーズンはその姫路にだれが侍ったをかけるかが最大の焦点となる。

☆

姫路は目下公式戦5連勝中。

過去3回の女子プロオールスターでもすべて優勝決定戦進出を果たしており、フリー転向初戦となる今年もVの最有力候

補だ。

とはいえ、優勝は19年の第1回大会のみ。とくに昨年はトップ進出を果たしながら、4位から勝ち上がってきた丹羽由香梨に敗れて初タイトルを献上し、以後の公式戦3大会では18位、30位、14位と足踏みした。今が絶頂期の姫路だが、付け入る余地はありそうだ。

今シーズンは、これもコロナ禍の特例でシード枠が従来の18名から24名に拡大されたことに伴い、同大会の出場枠も24名→26名に。別表のシードプロ24名に加え、出場優先順最上位の三浦美里(47期／前年度公式戦優勝者)と本間成美(47期／主催者推薦)が出場を予定している。

残念ながら新型コロナ“オミクロン株”による感染急拡大で無観客開催となってしまったが、決勝ステップラダー進出の切符5枚をめぐる総当たりラウンドロビンの戦いは例年以上に白熱すること必至だ。

出場常連組では、連覇を狙う丹羽と第2回大会覇者の坂本か

や、自他ともに認める姫路の好敵手・松永裕美、最近好調の霜出佳奈らに“ストップ・ザ・姫路”の期待がかかる。6人いる初出場組のなかでは、昨年17歳でデビューし、早くも2勝を挙げている中島瑞葵、幸運にも次点から繰り上がりで出場権を得た小林あゆみが要注目の存在だ。

1月末現在、JPBAの年間予定表に記載されている女子の公式戦(レディース新人戦を除く)は別表の12大会。3月の関西オープンからのスタートとなるプロのなかでは、昨年の全日本女子プロ選手権で姫路に肉薄したデビュー2年目のサウスポー・堀井春花(53期)、“小嶺ファミリー”の妹分・中島の活躍に負けじと奮起を誓う宇山侑花(48期)らが注目株だ。



▲残念ながら無観客開催となった女子プロオールスターの大会ポスター

“姫路一強”の現勢力図を塗り替える選手の出現が、女子プロ戦線をより活性化させる。いよいよ、新星!

2022JPBA 女子レギュラーツアー開催予定表

開催日	大会名	会場
2月12～13日	JPBA WOMEN'S ALL☆STAR GAME 2022	北小金ボウル(千葉)
3月17～20日	スカイAカップ第43回関西オープン	牧野松園ボウル(大阪)
5月28～29日	第9回グリコセブンティーンアイス杯	広電ボウル(広島)
6月24～26日	(仮)アイキョーホームプレゼンツ2022	アイキョーボウル(千葉)
7月8～9日	第38回六甲クイーンズオープン	神戸六甲ボウル(兵庫)
7月28～31日	第3回大岡産業レディース「THE OPEN」	ボウルアロー松原店(大阪)
9月14～16日	第15回MKチャリティカップ	MKボウル上賀茂(京都)
11月3～6日	第44回STORMジャパンオープン	稲沢グランドボウル(愛知)
11月19～20日	全卸連プレゼンツJPBA☆SSSカップ2022	東京ポートボウル(東京)
11月23～26日	APAプレゼンツ2022 KING'S&QUEEN'S	(調整中)
11月30～12月3日	第43回JLBCプリンスカップ	品川プリンスホテルBC(東京)
12月15～17日	HANDA CUP第54回全日本女子プロ選手権	(調整中)

※青字は男女共催

2022女子トーナメントシードプロ(2020-21最終ポイントランキング)

順位	氏名(期別)	ポイント	アベレージ	獲得賞金(円)
1	姫路 麗(33)	8,430	219.95	16,084,000
2	坂本 かや(49)	4,929	213.21	6,616,000
3	丹羽由香梨(35)	3,957	208.54	3,999,000
4	霜出 佳奈(50)	3,622	210.04	3,176,000
5	本間由佳梨(46)	3,428	208.27	2,649,000
6	松永 裕美(37)	3,288	209.79	3,482,000
7	佐藤まさみ(42)	2,848	209.47	2,607,000
8	中島 瑞葵(53)	2,480	211.20	3,150,000
9	久保田彩花(48)	2,423	207.47	2,218,000
10	寺下 智香(47)	2,321	206.24	2,094,000
11	川崎 由恵(48)	2,269	208.41	2,563,000
12	小林よしみ(43)	2,145	204.08	3,037,000
13	大嶋 有香(49)	2,083	204.13	2,355,000
14	小久保実希(47)	1,996	207.54	1,725,000
15	小池 沙紀(49)	1,919	207.31	1,641,000
16	板倉奈智美(36)	1,748	204.91	1,150,000
17	浅田 梨奈(48)	1,695	204.73	1,398,000
18	岸田 有加(43)	1,550	204.96	1,100,000
19	中谷 優子(28)	1,549	203.20	1,288,000
20	越智 真南(51)	1,459	208.27	1,365,000
21	名和 秋(35)	1,459	205.15	1,119,000
22	内藤真裕実(48)	1,451	205.42	1,086,000
23	桑藤 美樹(45)	1,439	202.72	1,359,000
24	近藤 文美(21)	1,301	205.54	871,000
25	小林あゆみ(44)	1,241	202.91	1,287,000

※小池紗紀が産休によるシードプロ辞退のため、小林あゆみが繰り上がりシードに

FOCUS UP

メディア総合イベント「Inter BEE 2021」の会場でアナウンスされたJPBAの“トップリーグ構想”

昨年11月17～19日の3日間、千葉・幕張メッセで開催されたメディア総合イベント「Inter BEE 2021」(12月7日までオンラインでも開催)に出展したパナソニック社が、最新リモートプロダクションのデモンストレーションとしてボウリング対決のライブ配信を実演し、大きな反響を呼んだ。

☆

このデモンストレーションには、(公社)日本プロボウリング協会(JPBA)とオフィシャルサイト「Rankseeker」を運営するSITE4D(株式会社サイトフォーディ)が全面協力。東京ポートボウル、永山コパボウル両センターを中継場所に、前者には姫路麗(33期)、後者には岩見彩乃(48期)と坂本かや(49期)が日替わりでスタンバ



▲展示場のメインステージに設置された超大型のプロジェクタースクリーン。手前は操作ブース(©JPBA)

イしてリモート対決を行った。両センターにはリモートカメラ3台と定点用カメラの計4台が設置されたが、中継車もなく、専任カメラマンも不在。ライティングやスイッチングなどのオペレーションはすべて展示場のブースからリアルタイムに遠隔操作され、ゲーム実況も同所

で行われた(MCは佐藤貴啓＝57期＝が担当)。

ゲームの様子はメインステージ上に設置された超大型のプロジェクタースクリーンにマルチ画面で表示され、多彩なCG画像を合成した映像もふんだんに使われてマッチゲームの興趣を盛り上げた。

パナソニック社の展示ブースには連日多くの人々が詰めかけてライブ対決に見入ったが、イベントの最後に流された「日本プロボウリング協会は、このリモートプロダクションを前提としたチームトップリーグを構想中です」というアナウンスが、ボウリングファンの心をときめかせた。

男女混成チームによるトップリーグ構想は、具体化に向けて4年前から有志の間でコツコツと検討が重ねられ、JPBA谷口健会長も本紙のインタビュー等で折にふれ言及していた。今回のデモンストレーションで実証されたとおり、ハード面の整備は着々と進んでいる半面、長引くコロナ禍に邪魔をされ、チー

ム編成やスポンサー開発等、ソフト面の準備・交渉に手間取っているのが実状のようだ。

しかし、不特定多数の人間が集う公の場でアナウンスされたということは、ようやく実現への道筋が見えてきたのだろう。「ラウンドワン LIVEチャレンジ」の盛況が示しているように、リモート対決は大いなる可能性を秘めた新時代のスタイル。詳細の発表を楽しみに待ちたい。



▲パナソニック社の展示ブースには連日大勢の人々が詰めかけた(©JPBA)